

2011年度 桐朋学園大学音楽学部音楽学科  
音楽学専攻課程 入学試験問題[作文]

課題文を読んで、下の問に答えなさい。

これまでは、一定量の音楽作品がレパートリーの確固とした総体を形成していて、そこに新たに加わる作品と消える作品の交代があることで若干は絶えず変動してはいても、レパートリー全体の核となる部分は変わることがなかった。クラシック（古典）音楽の“古典”たるゆえんはまさにここにあり、それは、いってみれば「歴史の審判を経た、掛け替えのない人類遺産」であり、要するに「価値ある芸術音楽」なのであった。そして、印刷され続ける作品の、量と種類の多い作曲家が大作作曲家であり、それだけ多くの人々に深く親しまれ、さらに理解を深めるための案内書その他の関連書籍も多く、だから音楽学者もそうした社会的要求に応えるべく研究し、解説し、その結果、大作作曲家はますます大作作曲家になっていく、という構造である。富めるものはますます富めるというキャピタリズムであり、このような現象を「大作作曲家インペリアリズム」という。作品が印刷されなくなり、音楽の演奏現場から姿を消した作曲家はマイナー・コンポーザーと、ドイツ語ではクラインマイスターと、呼ばれる。マイナー・コンポーザーとは、大作作曲家に対して“小作曲家”ということになるが、価値的な優劣がそれによって含意されてしまうのだとすればこれは誤解を招く用語ではある。

問：「大作作曲家インペリアリズム」について、あなたの考えを述べなさい。